

課題		論点	関係する意見	これからの学校に必要な機能、配慮事項など
新しい時代の学びを支える学習環境の整備		汎用性のある他者と話しやすい移動しやすい教室空間	・教員からは「学力の向上」と「コミュニケーション能力の向上」に特に重点を置くべきとして、重要視されている。 ・人数が多く、教科書や学習用具等の全てを収納できず、机に物を掛けたりしており、机と机の通路が狭くなっている。 ・タブレットや教科書、ノート、筆箱を置くと机は一杯である。 ・少人数での活動も必要であり、教室内を仕切れるとよい。	
		学年で使える多目的な教室、オープンスペース	・学年活動や学年縦割り活動がある。 ・あらかじめ話し合い等を行いやすい準備された部屋があって、使えると良い。多目的な2～3クラスが入れる大きな部屋が必要である。	
		学びを深めるラーニングコモンズ、自習室	・調べ学習や書籍を使った授業展開のできる学校図書室は欲しいという教員は多い。 ・委員会活動の場や自習室としての活用が考えられる。 ・PCルームは、中学校のプログラミング授業で使用するが、日常的に活用できる場所として、図書館と合わせてメディアルームができないか。	
		これからの学校に必要な諸室の統合・機能強化（特別教室の整備の考え方、ICT機器の導入）	・理科室、音楽室、図画工作室（中学校では美術室・技術室）、家庭科室は、道具の保管や展示もあり、各教科で必ず使うので必要である。 ・特別教室にもICT機器を設置してほしい。体育館には大型モニターがほしい。	
		職員室、会議室	・狭く、教員全員の机は確保できない。また、オンライン会議も多い複数あるが、対応する小部屋がない。	
多様な背景や特性のある児童生徒への対応		保健室とは別の相談室	・体調不良の児童生徒は保健室で対応している。 ・悩みを聴いて欲しい児童生徒も保健室で対応している。体調不良の子どもがいる場合は、別で相談にのるが、部屋の確保が難しい。	
		クールダウンスペース、休憩場所	・登校してすぐに教室に入れない子どもがいる。 ・それぞれの子ども自身が落ち着くことのできる小さなスペースが必要である。なお、見守りが必要であり、完全に個室とすることは安全面からはよくない。	
		子ども達の居場所づくり（校内教育支援センター）	・試行設置している校内教育支援センターは不登校対策で成果を上げている。学校と児童生徒との関係構築の場となっており、不登校児童生徒は減少している。	
地域との連携		学校の教育力の向上	・教員からは、地域との協力関係で、授業補助（ゲストティーチャー等）の推進に重点を置くべきとされている。 ・外部講師による学習は学年単位の授業となり、体育館で行うことが多い。	
		セキュリティ	※外部利用と安全の両立	

課題		論点	関係する意見	これからの学校に必要な機能、配慮事項など
生活・安全面		トイレ	・トイレがとても汚い、古い、臭いがするといった声が非常に多くある。また、全てのトイレを洋式化して欲しい、流れが悪い、便座が冷たい、鍵が閉まりにくいといった意見があり、非常に不満である。	
		床	・床が汚く、掃除をしてもきれいにならない、黒いシミがある、穴が空いている、虫が出てくるといった意見がある。	
		ロッカー	・児童生徒からは、狭くて、物が入らないといった声があり、教員も収納スペースを問題視している。	
		手洗い場	・児童生徒からは、使いにくい、汚いといった声が、教員からは授業でも使う場合があるので、1つのクラスに1つ欲しいといった意見がある。	
		照明	・暗いところがある。 ※2027年末までに蛍光灯の製造・輸入が禁止となるが、学校施設の照明の大半は蛍光灯である。	
		更衣室	・着替えに必要である。	
その他				